



くぼたつ

久保田達也(くぼた・たつや)：冒険家、NAPU大学名誉人文学博士、ラジモア大学教授、工学院専門学校インターネット科特別講師、日経新聞ビジネスセミナー常任講師。

迷いに迷ったあげくの選択 くぼたつの手帳理論はここに完成をみた

そろそろ来年の手帳を決めるシーズンだ。小生馬鹿といかなんといつか、毎年この手帳が本屋さんに並ぶのを見ると心中おだやかでなくなる。「どれにしよう」と思案に明け暮れる日々が始まるのである。ひどいときは数冊の手帳をかたっぱしから買いあさって机の上に並べ、あれこれと悩むこと1か月間というときもあった。手帳というものが根っから好きなのかもしれない。

机の引出しを開けると、ここ10年間のくぼたつの手帳使用動向がわかる。おもしろいことに、電子手帳とアナログ手帳を半年おきぐらいに交互に使っているのだ。アナログ手帳はポケットに突っ込んでおける、折れ曲がっても平気、ひらめいたときにすぐアイデアをメモできる、図やイラストでも表現できる、なによりも万年筆で書くあの感触がさらにアイデアを生み出す、というのが利点だ。しかし、しばらくすると飽きるのだな、アナログというやつは。

そこで電子手帳となる。電子手帳はかっこいいし、なんかハイテク使いこなすとすっごく頭よくなったように見られる気がするし、エスパーつーか、少年のころ見たハイテク腕時計を使いまくるスーパージェッターとか、ハイテクカーを乗り回すジェームス・ボンドみたいな自分になったその世界に酔いしれちゃうのだな。だが電池切れとか電源入れても起動が遅いとか、文字入力がかやこしいとか、踏んづけて液晶モニターが壊れたとかに直面すると、その陶酔も興ざめしてしまって、腹いせにアナログが一番とかいって逆戻りする。

つまり、この繰り返しを僕は10年間やってきたわけで、とどのつまり僕の手帳理論は「飽きないように使う」である。電子だろうがアナログだろうが、長持ちしようがしまいがなんでもいいのだ。「こいつはスッゲーアイデアだ」と思いついたら、すぐに記録できるおもちゃを持っていればよかったのだ。実際に、引出しの中の手帳を開けてみると山ほどなにか書いてあるが、内容はたいしたものじゃない。そのとき「宝だ!」と思って書いたアイデアもなんてことはない。舞い上がっていた自分が記憶のなかにあるだけだ。しかしそれがおもしろいのである。僕はアイデアを生きがいにしている仕事柄、それでいいと思っている。

仕事の楽しみとは資料を貯めることではなく、新しい考え方を次々に世に出すことだ。くぼたつの手帳理論



はここに完成をみるに至った。「手帳とは記録するためのものではなく発想するためのもの」という考えに到達したのだ。そこで、僕は来年の手帳をこう定義づけることにした。

記録機能を捨て、アイデア発想の支援機能に特化して使うこと。

ポストイットのように、メモはしばらくすると捨てる運命にあるとしたい。アイデアは貯めるものではなく、生鮮食品みたいに早いうちに加工して食す(世に出す)ものなのだ。「アイデア管理とは即食べて血となり肉とすることなり」

携帯性に優れていること。

アイデア発想重視の仕事では、どうしても五感を使った情報収集が必要になる。成功する企画は自分の体験をもとにある日突然ひらめく。体験をよりどころとする仕事が企画であるからして、デスクにいるのではなく、外をほつつき歩いている状態で情報管理ができるのが手帳となる。

情報力を重視する。

五感を満足させるようなおもしろいことが、いつ、どこで行われるのかを知る情報をいつでも入手できるほうが楽しくなるに決まってる。こんなときは仲間からのメール情報が楽しい。利害関係なしのおもしろ情報をリアルタイムで知ることができるのがなによりもご機嫌なのだ。

かくして僕の来年の手帳は決まった。迷ったあげくの一品とは? ヒントは上の写真のなかにある。どうしても答えを知りたい方は、下のURLにアクセスしてほしい。

internet.impress.co.jp/kubotatu/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp